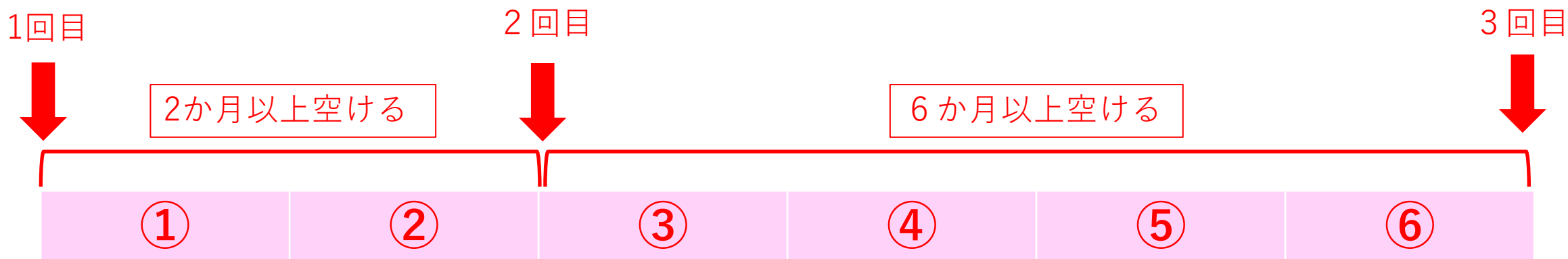


子宮頸がんワクチンの変更について

- 子宮頸がんの原因になるウィルスとしてヒトパピローマウィルス (HPV)があります。HPVには100種類以上の遺伝子型があり、中でも16,18型による感染が子宮頸がんの原因の約50-70%を占め、さらに31,33,45,52,58型を加えると約90%を占めると言われています。一方、6,11型は良性の疣贅である尖圭コンジローマの主な原因として挙げられています。
- 今まで当院では16,18,6,11型を予防する4価HPVワクチンであるガーダシルを採用しておりましたが2023年4月1日より、その他の31,33,45,52,58型まで予防する**9価HPVワクチンであるシルガードが定期接種のワクチンに変更になります。**



接種スケジュールについて



2023年4月1日から接種が始まるシルガードは計3回接種となります。
1回目の接種から2か月空けて2回目、1回目の接種から6か月空けて3回目接種になります。

※2023年3月31日までに1回目・2回目のガーダシル接種をされている方へ※

1回目、2回目までを従来のガーダシルで打っていた方が2回目、3回目のHPVワクチンを2023年4月1日以降に接種する際に従来のガーダシルになるか新規採用のシルガードになるかは現在、各自治体で検討されています。3月にHPVワクチン接種を考えられている方については原則ガーダシルとなります。また、4月1日以降に打つことにしてもシルガード接種が確約されているわけではありませんのでご注意ください。

4種混合ワクチンのスケジュール変更について

- 百日咳による乳児の重症化予防を目的とし、4種混合ワクチンの初回接種開始時期が、現在の生後3か月から生後2か月へ前倒しされます。

		2か月	3か月	4ヶ月	5ヶ月	6か月	7-8か月
4種混合 (注射)	2023/4/1~	①	②	③			
	従来		①	②	③		
Hib(注射)		①	②	③			
小児肺炎球菌(注射)		①	②	③			
B型肝炎(注射)		①	②				③
ロタウィルス(シロップ)		①	②	③			